

1 研究の背景と目的

Dornyei (2005) は「生徒と個人的な関係を築くこと」、具体的には「教師が生徒を受容し、また気にかけていることをはっきり示すこと」が動機づけの戦略として有効であるとしている。

また、斎藤 (1998) は、生徒が持つ「教師に対するニーズ」・「教材に対するニーズ」・「学習活動に対するニーズ」・「到達目標に対するニーズ」の中で一番強く出るのは「教師に対するニーズ」であり、いかなる教材を使うにしても、いかなる学習活動を展開するにしても、いかなる到達目標を設定するにしても、その中心には常に教師が立っており、生徒の要求がまずは教師に向けられるというのは当然のことであるとしている。

英語教員は生徒にとって最も身近な英語話者のモデルである。その英語教員が生徒にとり、「英語で自分の考えを伝えてみよう」と思う第一の対象たり得ることは、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度の育成に大きく関わるであろう。そのためにはより多くの生徒、可能であれば授業を受けるすべての生徒と「一対一の良好な関係」を築いておきたい。

性格的相性や接触の頻度・密度に関係なく、可能な限り多くの生徒の情意面に働きかけて心を開かせ、まずは間違いを恐れずに積極的に伝えてみようという気にさせてやりたい。そのための人間関係作りを、授業を進めながら可能にする方法を模索し、確立することはできないだろうか。

Vargas (1987) は、「お互いがしっかりと見つめ合うことが、コミュニケーションのチャンネル開設を意味することになる」、「相手のこちらへの注視の度合いが、その人の注意集中度を判断する標識となる」と述べている。これは、授業中に教員が生徒と個々に向き合って視線を合わせて特定の活動を奨励し、承認する機会を設けることで、「愛の欲求」や「承認の欲求」(Maslow1970) を少しでも満たすことができることを示唆している。またその結果、英語の授業における「自己実現の欲求」つまり、「積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲」を高められる可能性が推測できる。

これらを踏まえ、授業に導入してその効果を検証したいと考えたのがグルグル・メソッド(静;2009)と、その際のルールとして生徒に課すアイコンタクトである。個々の生徒と視線を合わせながら声を掛けていくことにより、教員はダイレクトに一人一人の生徒を励まし、名前も覚えることができる。

結果としてそれらは生徒の情意面に働きかけて「授業が好き、楽しい」という思いを与えられるのではないか。さらには授業の中で無理なく一人一人の生徒と信頼感や安心感溢れる良好な人間関係を築き、まずはこの英語話者(担当の英語教員)に自分の考えなどを積極的に伝えてみようという態度を育成することが可能ではないか、と考えた。

2 研究仮説

2.1 研究仮説 1

個々にもたらされるアイコンタクトの機会は生徒に①教員から声を掛けてもらえ、②名前を覚えてもらえ、③激励を受けていると実感させることができ、教員と生徒の間の心理的距離感を縮め、担当教員への印象もより良いものとするだろう。

2.2 研究仮説 2

上記①～③により生徒の多くは、担当教員に肯定的な印象を抱き、当該科目である英語を「より楽しく、より好きである」と思うようになるだろう。

2.3 研究仮説 3

より近くなった心理的距離感と、それにより英語がより好きになったという思いから生徒は担当教員に対し、より積極的な英語でのコミュニケーションを試みるようになるだろう。

3 研究方法

3.1 先行研究調査

- ・文献研究
- ・日頃の授業および教員の生徒に対する姿勢や態度に関する生徒へのアンケート

3.2 授業実践

- ・グルグル・メソッド+アイコンタクトによる個別の発音および暗唱テスト
- ・各授業の最後に行う英語でのジャーナル・ライティング

3.3 検証方法

3.3.1

事前アンケートによる、生徒の日頃の授業での教員や授業への意識を基準とし、その結果に対して一定期間の後に行うアイコンタクトの機会を設ける実験群と、アイコンタクトの機会を設けない統制群とのアンケートによる意識調査結果の差、つまり教員に対してより良い印象を抱かせられるようになったかを比較する。

3.3.2

アンケート結果の実験群と統制群との比較から、アイコンタクト・ルールを採用したことにより、生徒が英語の授業をより好きだと感じるようになったかを検証する。

3.3.3

各授業において英語でのジャーナル・ライティングを課し、積極的なコミュニケーションの尺度として、そこでの語数や語数の変化（増加）において、実験群と統制群との間に差が生じるかを検証する。

4 研究内容

4.1 日頃の授業や教員に対する意識調査

これまでに授業を受けてきた教員の「全体的な」印象について、「そう思う・満足している」の度合いを最大5で調査する。

一定期間の授業において、実験群に対し「グルグル・メソッド+アイコンタクト」、統制群に対し「グルグル・メソッド」を実施した後に、下記の1～17の質問事項により、(学習およびコミュニケーションの意欲向上の要因としての)全体の教員と、担当教員へ抱く印象に差が生ずるか、また実験群と統制群の間にも差が生ずるかを検証する。

4.2 グルグル・メソッド+アイコンタクトとジャーナル・ライティング

グルグル・メソッド実施時に、平常点に含まれる暗唱テストのポイントを確認するために、生徒はポイント用紙を配布され、それを持って練習・テストに臨む。

用紙の最下部にジャーナル・ライティング用にフリー・スペースを設け、生徒はその日の感想や自由記述のコメントを英語で記入する。

コミュニケーションの積極性を問うため、生徒にはジャーナル・ライティングは強制ではなく、「書きたいこと」「伝えたいこと」があれば書いて欲しい旨を伝え、コメントに対しては必ず返事を書いて返却する。

毎時間、各生徒のジャーナルの語数を記録し、そこから全体の平均を調査し、回数を重ねる毎に「積極的なコミュニケーションの態度」の基準としての語数の平均に変化が生ずるか、また実験群と統制群の間に差が生ずるかを検証する。

4.3 検証

4.3.1 質問紙調査による学習者の意識調査

個別アイコンタクトの機会を設けたことによる学習者の教員に対する意識・評価をアンケート形式で調査する。

質問事項(斎藤,1998) およびそれらに対する生徒の実際の満足度(最大で5)の平均値は以下の通りであった。

1. 先生の説明はわかりやすいですか (3.24)
2. 教科書プラス α の工夫は感じられますか (3.42)
3. 先生はよく準備をしていてスムーズに授業を進めますか (3.95)
4. 活動にバリエーションはありますか (2.95)
5. よく気を配り、生徒に参加意識や一体感を与えてくれますか (3.39)
6. 生徒のチャレンジの場を与えようとしてくれますか (3.41)
7. 幅の広い授業を心掛けてくれますか (3.27)
8. 先生は「自分の道」(信念や専門性)を持っていますか (3.27)
9. 授業とそれ以外のけじめはキチンとついていきますか (3.86)
10. 先生は声を掛けてくれますか (3.46)
11. 先生は名前を覚えてくれますか (3.78)
12. 先生は生徒を励ましてくれますか (3.22)
13. 生徒の立場で物事を考え、気持ちを理解してくれていますか (3.14)
14. 優しさの中にも厳しさを持って教えてくれますか (3.54)
15. 生徒との信頼関係を大切にしようとしてくれますか (3.19)
16. 先生から教えることの情熱は感じますか (3.41)
17. 先生自身その教科の勉強や教えることを楽しんでいそうですか (3.39)

上記の結果を基準値とし、グルグル・メソッドのみを取り入れる統制群と、グルグル・メソッド+アイコンタクトを取り入れる実験群の3者間の差を検証する。

さらに、実験群および統制群には質問 18 として「この授業を受けて、英語がより好きになりましたか」という質問を加え、授業の中での個別指導の効果と、個別指導+アイコンタクトの効果を検証する。

4.3.2 ジャーナル・ライティングの語数によるコミュニケーションの積極性の調査

個別アイコンタクトの機会を設けたことによる積極的なコミュニケーションの度合いの変化を、

ジャーナルの語数の平均の調査によって検証する。

5 研究計画

5.1 対象生徒

平成 23 年度 1 年生 3 クラス (1 クラス 30 名 2 クラス 26 名)

平成 24 年度 実験群 3 年生 1 クラス 20 名 統制群 3 年生 1 クラス 20 名

5.2 指導科目および教科書

平成 23 年度 英語 I (5 単位)

Power On English I (東京書籍)

平成 24 年度 オーラル・コミュニケーション I (2 単位)

Hello there! Oral Communication I (東京書籍)

5.3 指導計画

平成 23 年 6～8 月 文献研究

平成 23 年 9～12 月 授業形態の模索

- ・グルグル・メソッドによる個別方式テストの試験的導入

平成 24 年 1～3 月 試行

- ・アイコンタクト・ルールの採用
- ・日本語によるジャーナル用スペースの試験的導入
- ・アンケートによるグルグル・メソッドに関する意識調査

平成 24 年 4～10 月 授業実践

- ・アンケートの実施
- ・「グルグル・メソッド+アイコンタクト方式」による個別暗唱テストの実施
- ・英語によるジャーナル・ライティング用スペースの導入

6 研究実践

6.1 試行

6.1.1 グルグル・メソッド+アイコンタクトの導入と確立

- ・教科書の 1 パートを以下の 3 時間にて展開する

1 時間目：新出単語の意味と発音の確認

- ・全体で新出単語の発音アクセントを確認する。
- ・1 回につき約 3 分の 1 に分けた新出単語の発音とアクセントをグルグル・メソッド (教室においては呼称を「GG」と定めている) による個別テスト形式で確認する。
- ・同様の形式で 3 巡行う。

教材例 1

単語 G G of Lesson 08						
Part 1				ノルマ 2/3		
1	読み	Ire·land Bri·tain far·ther rea·son cur·rent flow round there·fore u·ni·form sym·bol pa·rade clothes			12秒	
巡	活動	日本語	→	英語	時間	成功
2	読み	理由		reason	4秒	
		潮流		current		
		流れる		flow		
3	書き	それゆえ	therefore	4秒		
		象徴	symbol			
		パレード	parade			
		衣服	clothes			
1年 組 番 氏名						

2時間目：内容理解

- ・個人またはグループ・ワークにて本文の内容理解を進め、後に全体で確認する。
- ・文中の覚えさせるべき熟語や構文をピックアップし、1時間目と同様のグルグル・メソッドによりテストする。

教材例 2

語句 G G of Lesson 08						
Part 1				ノルマ 2/3		
巡	活動	日本語	→	英語	時間	成功
1	読み	イギリスの横に		along the side of Britain	4秒	
		ずっと北に		farther north		
		よりずっと暖かい		much warmer		
2	読み	～で覆われている	be covered with ～	4秒		
		一年中	all the year round			
		他の点でもまた	in other ways as well			
3	書き	1 & 2 巡より出題			10秒	
フリー・スペース						
1年 組 番 氏名						

3時間目：文法学習

- ・ターゲットとなる文法事項の学習の後，ターゲット・センテンスの暗唱を1，2時間目と同様にグルグル・メソッドによるテスト形式により覚えさせる。
- ・その後，事前に生徒より集めた日本語のリストを基に，学習した文法を駆使して英作文をする。英作文は口頭により，グルグル・メソッド方式にて行う。

教材例3

グ ラ マ ー G G of Lesson 08

Part 1

/ルマ 2/3

巡	和 → 英	時間	成功
1	その理由は [暖流がアイルランドの周りを流れているということ] です。 The reason is [that a warm current flows around Ireland].	7秒	

Aさんはヴィジュアルはイケてないけどモテます・・・

2	その理由は [彼(女)が～な人だ ということ] です。 The reason is [that he/she ...].	7秒	
---	--	----	--

Bさんはヴィジュアルはイケてるけどモテません・・・

3	その理由は [彼(女)が～な人だ ということ] です。 The reason is [that he/she ...].	7秒	
---	--	----	--

モテ	非モテ
面白い (is so amusing)	チャラ男/女だ (is so frivolous)
優男/女だ (is so tender)	面白くない (not so amusing)
相手のことを考えている (is so attentive to others)	怖い (looks tough)
筋肉がある (is so muscular)	馬鹿だ (is so stupid)
リア充だ (lives a full life)	目つきが悪い (is fierce-looking)
デカイ人物だ (is a big person)	イケメン過ぎだ (is too handsome)
超野性的だ (is super-wild)	自己チューだ (is so selfish)
謙虚だ (is so modest)	バナナが大好きだ (can't live without bananas)
行動がステキだ (behaves sophisticatedly)	ナルシストだ (is a narcissist)
お金持ちだ (is rich)	冷たい (is so cold)

フリー・スペース

1年 組 番 氏名

クラス1 (100%) クラス2 (96.7%) クラス3 (100%)

2年目に行う選択科目のオーラル・コミュニケーションIの授業において、より意識・意欲の高い生徒に対して行った際の効果を十分に期待させる内容だと考える。

6.2 授業実践

6.2.1 アンケートの実施①

日頃の授業や教員に対する意識調査の結果は4.3.1の通りであった。

6.2.2 グルグル・メソッド+アイコンタクトの授業+ジャーナル・ライティング

1レッスンを、1時間をALTとのTT、1時間をグルグル・メソッド+アイコンタクトによる個別テスト形式での暗唱練習、計2時間で展開する。

展開例

実験群	統制群
①生徒は教員と視線を合わせる。 ②教員は生徒の名前を呼ぶ。 ③生徒は教員の名前を呼び返す。 ④教員は出題し、時間を計測する。 ⑤生徒は制限時間内に視線を逸らさず答える。 ⑥答えられた生徒には笑顔で握手をし、褒め言葉を掛け次の生徒へ移動する。ミスに対しては残念な気持ちを共有し、励ましの言葉を掛けてから次の生徒へ移動する。 ⑦以下同様に繰り返す。	①生徒は教員の出題を待つ。 ②教員は出題し、時間を計測する。 ③生徒は制限時間内に答える。 ④教員は終了後、次の生徒へ移動する。 ⑤以下同様に繰り返す。
実験群、統制群とも生徒は提出用のポイント用紙下部のジャーナル・スペースに英語でその日の感想等、自由記述にてコメントを書いて提出の準備をする。 その際、コミュニケーションの積極性を検証するため、生徒にはジャーナルは強制ではなく、書きたいこと・伝えたいことがあれば書いて欲しい旨を伝えてある。	

生徒はしばらくの間、教員と近い距離で向かい合って視線を合わせることに強い心理的負担を感じるものの、やがて緊張や恐怖感も薄れ意欲的に取り組む者が増える。さらに授業の回数を重ねるにつれ、より楽しいと感じていることを表明する生徒が増えたことを実感できた。

教材例4

Lesson 01 GG (星座)					
巡	日本語		英語	時間	成功
1	牡羊座	→	Aries		
	牡牛座	←	Taurus		
	双子座		Gemini		

巡	日本語		英語	時間	成功
2	蟹座	→	Cancer		
	獅子座	←	Leo		
	乙女座		Virgo		

巡	日本語		英語	時間	成功
3	天秤座	→	Libra		
	蠍座	←	Scorpio		
	射手座		Sagittarius		

巡	日本語		英語	時間	成功
4	山羊座	→	Capricorn		
	みずがめ座	←	Aquarius		
	魚座		Pisces		

Journal in English

3年 組 番 氏名

7 研究評価

7.1 24年4月に行った「普段の授業や教員に対する印象」に関する意識調査と同じ質問(4.3.1)と自由記述により、グルグル・メソッド+アイコンタクトの及ぼす効果を検証した。

7.1.2 調査結果

表1 教員に対する意識調査

質問事項	基準	統制群	実験群
1. 先生の説明はわかりやすいですか	3.24	4.10	4.33
2. 教科書プラスαの工夫は感じられますか	3.42	3.79	4.06
3. 先生はよく準備をしていてスムーズに授業を進めますか	3.95	3.95	4.50
4. 活動にバリエーションはありますか	2.95	3.75	4.22
5. よく気を配り、参加意識や一体感を与えてくれますか	3.39	3.85	4.44

6. 生徒にチャレンジの場を与えようとしてくれますか	3.41	4.00	4.42
7. 幅の広い授業を心掛けてくれますか	3.27	3.90	4.37
8. 先生は「自分の道」(信念や専門性)を持っていますか	3.27	3.90	4.39
9. 授業とそれ以外のけじめはキチンとついていますか	3.86	4.00	4.42
10. 先生は声を掛けてくれますか	3.46	4.10	4.53
11. 先生は名前を覚えてくれますか	3.78	4.14	4.63
12. 先生は生徒を励ましてくれますか	3.22	3.67	4.37
13. 生徒の立場で物事を考え、気持ちを理解してくれていますか	3.14	3.76	4.32
14. 優しさの中にも厳しさを持って教えてくれますか	3.54	3.81	4.00
15. 生徒との信頼関係を大切にしようとしてくれますか	3.19	3.90	4.47
16. 先生から教えることの情熱は感じますか	3.41	3.90	4.53
17. 先生自身その教科の勉強や教えることを楽しんでいそうですか	3.39	4.05	4.39
18. この授業を受けて、英語がより好きになりましたか		3.95	4.21

自由記述 (統制群)

- ・暗唱テストの時に覚えていないとき、サポートしてくれたり、手拍子で拍を取ってくれたりして、暗唱は苦手だけど頑張ろうと思えました。
- ・私たちと一緒に努力してくれるので楽しく覚えることができました。
- ・毎回きちんと準備をしてくださいます。 ・楽しく授業を受けています。
- ・わかりやすい！ ・授業の中で一番好きです。 ・明るくて好きです。
- ・大好きです！これからも英語がんばるので見守っててください！
- ・生徒のことをちゃんとと思っているんだなと思いました。厳しいですが言っていることは間違っていないと思います。
- ・生徒一人一人としっかりコミュニケーションを取っていると思う。
- ・みんなを笑わせたり、すごく楽しい雰囲気、たまにどじをふんで？「あ～やっちゃった～」「まちがえた～」といっている先生がすごく可愛いと思っています。
- ・すごく明るくて、優しい先生です。 ・生徒よりも頑張っているところが印象的

自由記述 (実験群)

- ・ちゃんと生徒のスピードを考えていて素晴らしいと思う。 ・毎回毎回楽しくできました。
- ・アイコンタクトは最初はとても緊張しましたがだんだん慣れてきて楽しかったです！
- ・他の英語の授業ではない、コミュニケーション力を中心とした感じがとても楽しく、良い授業だと思います。 ・先生は周りをよく見ながら進行してくれる！
- ・今までにない英語の授業ですごい楽しかったです！
- ・先生の授業はとても面白いです。時間がたつのがとっても早く感じます。
- ・とてもわかりやすく、楽しい進め方だった。
- ・一言だけ！！パーフェクトです！！先生の授業！！
- ・オーラルの授業は、私たちがいつもつらい時、楽しませてもらえる授業だと思います。
- ・いつも工夫してくれているのが分かりました！！進め方もとても上手で分かりやすかったです！生徒への接し方、教え方もとってもよかったです！パーフェクトですね！
- ・最高でした本当。細かいところまでいつも一生けん命やってくれてとても解りやすかったです。「一体感」とは先生のためにあるような言葉。今まで、学生人生の中で先生ほど、

生徒のことをいつも見ていて気にかけてくれる先生はいませんでした。特にオーラル・コミュニケーションという授業は先生が代表的な方といってもかごんではないです。

- ・授業がいつもスムーズでした。 ・一人一人の生徒に親切で親しみやすい先生でした。
- ・せんせー！とってもよかったです！！また一緒にオーラルやりたいです。大好きです。
- ・先生は本当に先生としても人としてもすごいと思います。めちゃくちゃ尊敬します。大好きです。respect !!!!この3ヶ月で、たったの3ヶ月でも先生のいいところがたくさん見えるくらい先生は本当すごいと思います。
- ・先生は良い先生です！！ ・一緒に話しているととても楽しいです。みんなのことを名前前で呼んでくれてすごく嬉しいです。
- ・週2回の授業で、学年も違うのに名前を覚えて呼んでくれるのはすごいうれしいです！
- ・生徒と同じ気持ちになってくれるくらい、優しさは鬼です。暗唱でかなり失敗した時とかも励ましてくれるところが他の先生とは違います。みんなが好きになる理由がわかります。
- ・私の健康の事や、もちろん授業中の態度とかにもすごく気をつけてくれて、全員を個人としてみて下さるので、みんな先生の事は絶対好きだと思います。
- ・名前もみんなのこと覚えてくれて、話し方も優しく、目線も合わせてくれてとてもいい先生だと思いました。
- ・周りを見て本当にみんなのことをわかろうとしてくれている！
- ・すごく優しくて熱心だと思います。いつもコメント返しではげましてくれるのがとても嬉しいです。

表2 英語でのジャーナルによる、コミュニケーションの積極性の調査

	4月	5月	6月	9月	10月
統制群	1.9	2.3	3.6	3.5	3.6
	47.5	47.5	60	55	60
実験群	2.7	4.3	5.3	5.2	5.5
	65	85	90	95	92.5

上段:平均語数(語)

下段:参加割合(%)

表1では、すべての質問において「基準値≦統制群」との結果が見て取れ、また両者の間には明確な差があり、グルグル・メソッドによる「一斉指導における個別指導」がもたらす「教員と生徒の心理的距離感の縮小」の効果が見られた、との印象を受けた。

またすべての質問において「統制群<実験群」との結果が見て取れ、両者の間には明確な差も見取れる。自由記述のコメントの量からも、グルグル・メソッド+アイコンタクトにより「教員と生徒の心理的距離感」はさらに縮小されそうだと、との印象を受けた。

表2における各月の平均のジャーナル・ライティングによる、積極的なコミュニケーションの態度に関しても、語数には統制群・実験群の間に大きな差はないものの、コミュニケーションを試みた生徒の割合には明確な差が見られ、グルグル・メソッド+アイコンタクトがもたらす効果は大きいと感じた。

8 結論

以上の試みと調査から、学習意欲向上への支援に関する、個別指導の、一斉指導に対する

優位性は改めて明確であり、上記の自由記述の感想にもあるように「個として認められること」は、生徒に大いに喜びとやる気を与えてやれることを強く実感している。

さらに、「ただ目を見ること」や「名前を呼んでやること」が、生徒に教員との関わりの密度を濃いものと感じさせることができ、その結果生徒は担当する教員の「よい面」を探そうとするようになることも、7.1.2の表1の質問事項5, 8, 9, 13, 14, 15, 16, 17などから見て取れた。そのことは「自分も頑張ろう」という、授業に対するさらなる動機になると考えられる。

さらに表2からは語数は少なくとも、間違いを恐れず、とにかく思ったことを英語で書いて伝えてみようという積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度が、同様に「アイコンタクトの機会」によりもたらされたと推測でき、本研究において一定の効果がもたらされたと考えられる。

一方で改善・解決すべき課題もあると感じている。それはより効率的な時間の使い方である。グルグル・メソッドによる個別方式での暗唱テストにおいて、生徒は自分の番が回ってくるまでのおよそ5から6分の間、常に集中して練習をしているわけではなく、集中の度合いの観点から見れば空いた時間があるのも事実である。

現状でのメリットとデメリットを比較し、メリットの方が遥かに大きいと判断できるために採用している方法であり、決してデメリットのない方法ではない。また、本校では少人数制の授業ができるなど非常に恵まれた環境にあり、40人の生徒を1人の教員が相手をするとすれば一度の授業で十分な頻度の接触を図れるのか懸念される部分もある。

それでも本活動から得られる効果は大きく、今後も様々な工夫を凝らしながら、より効果的に生徒の学習意欲を向上させられる方法を探っていきたい。

9 引用文献・参考文献

9.1 引用文献

Dorney, Z 『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』(2005) 大修館書店

斎藤栄二 『英語授業 成功への実践』(1998) 大修館書店

Vargas, M 『非言語コミュニケーション』(1987) 新潮社

9.2 参考文献

Maslow, A. H. Motivation and Personality (1970)

斎藤栄二 『英語を好きにさせる授業』(1984) 大修館書店

『基礎学力をつける英語の授業』(2003) 三省堂

静哲人 『英語授業の心技体』(2009) 研究社